

令和元年度 第1回南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年 7月 31日(水)午後 1時 30分から午後 2時 50分まで
会 場	南区役所 4階 講堂
出席者	<p>南区自治協議会委員 22名(欠席8名)</p> <p>教育委員:上田教育委員、小野沢教育委員</p> <p>事務局:前田教育長、地域教育推進課長補佐、学校支援課長補佐、学校人事課管理主事、教育総務課長補佐、保健給食課長、白根地区公民館長、白根図書館長、</p> <p>南区教育支援センター所長 他4名</p> <p>傍聴者: 1名</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 教育委員挨拶</p> <p>3 意見交換(司会 南区教育支援センター所長)</p> <p>・令和元年度新潟市教育委員会の施策について(教育長)</p> <p>・保護者・地域・学校の連携の現状と課題について(地域教育推進課)</p>
上田教育委員	<p>教育委員あいさつ</p> <p>時代が変わる中で子どもを取り巻く環境・教育の在り方も変わってきている。その中で『どういうふうに連携をとって行けば子どもたちが健やかに成長できるか。』は、大きなテーマの1つであり、連携は大きなキーワードになる。南区は、自治会長・コミ協はじめ地域の方・保護者・学校の連携がしっかりとれていると聞いている。それは南区のすごい強みであり、今日はそういうところを勉強させてもらいたい。</p>
小野沢教育委員	<p>南区の連携の強さというのを大変期待をして今日伺った。</p> <p>私は、小学校5年までおとなしい子どもで、話をすることを生業とするようになったのは、私に関わってくれた学校の先生、身近にいた大人が、『何を言っても大丈夫、私を守ってくれるという安心感』を与えてくれ、少しずつ気持ちを開き、話ができるようになった。新潟の子どもたちは、みんな力があり、未来がある。その子どもたちの未来がちゃんと花開くようにするため皆さんと協力させてもらい、子どもたちの未来を見つめ、作っていきたい。</p>
前田教育長	<p>あいさつと「令和元年度教育委員会の施策について」説明</p> <p>昨年度西区の児童死体遺棄事件という大変痛ましい事件が発生し、また今年度も川崎市で登校中の児童や保護者が犠牲になるという痛ましい事件が発生するなど、子どもたちの登下校の安全確保が大きな課題となっている。地域の皆さまからは見守りなどたくさんのご協力に感謝している。</p> <p>小中学校の普通教室のエアコン設置について、夏休み明けまでに50校程度を予定していたが、エネルギー方式の変更や入札の不調等により、25校程度になっている。今年度中には全ての普通教室にエアコンの設置を完了する予定である。</p>

	<p>人口減少・グローバル化・超スマート社会の実現など、だれも経験したことのない社会が待っている。これからの地域と未来を担う子どもたちがそうした予測困難な社会の中で自ら主体的に関わり、多様な他者と協働しながらしなやかにたくましくより良く生きていくための力を身につけるには市民総ぐるみで取り組んでいかなければならない。教育委員会としても精一杯取り組んでいく。今後とも皆さまのお力添えをお願いしたい。</p> <p>施策説明</p> <p>意見交換</p>
<p>中野自治協 委員</p>	<p>P2『共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進』は、何年か前から『インクルーシブ教育』を耳にするようになり、とてもいいことだと期待している。しかし、どのようにされているか分からないので、『インクルーシブ教育』のイメージと、どのように実践し、どのような効果があるか。3つ目として『インクルーシブ教育』を行っている中で児童・生徒当事者たちの声を聴きたい。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>『インクルーシブ教育』は、障がいがある子どもも障がいがない子どもも同じ場でさまざま活動することによって、それぞれの立場・それぞれの状態をしっかりとお互いが把握しながら、進めていくことができるところに大きな成果がある。主な活動としては、特別支援学級に在籍している子どもも通常学級に在籍している子どもも、子どもたち同士の交流や共同学習などを通して互いに学び、人権やいじめなど心の教育についても充実した教育を行っていくことができる。ただ、単に障がいがある人となない人が区別され、ただ参加すればいいというだけの教育ではなく、その中から学習面、道徳的・人権的なことを含めて、互いが成長していける共生の社会をつくっていくために行われている。学校行事、授業や生徒会の活動の中でそのような場面を意図的に作って実施していくことを進めている。</p> <p>特別支援学級の生徒が、自分の思いをなかなか表現できない場合でも周りの子どもたちがしっかりと手助けや支援をしたりする、というところで、「非常に自分を表現できるようになった。自分でいろんなものを自己決定できるようになった。自己存在感、有用感が生まれてきている。」と学校で実施しているアンケートや活動の中での様子を学校訪問・計画訪問、特別支援教育の会議等で聞いている。</p>
<p>中野自治協 委員</p>	<p>親でも子どものことが分からないことがあり、子どもは思っていることを大人の圧力やそういう風潮があって言えない。特にそういう子どもは言えない。アンケートの仕方もそのことを視野に入れ、本当のことが言えるアンケートを行ってほしい。</p>
<p>渡辺自治協 委員</p>	<p>いじめ対策・不登校対策で、先生方が発見する前に同じクラスの子がいじめを受けた場合、仲介とか止め役がいればかなりいじめが減るのではないかと。不登校の場合も近所の同級生が迎えに行くなどの対策をとっていただければ減ってくるのではないかと。実際は登校中の生徒たちをみているとそうことは少ないが、学校の方で教育していったほうがよい。という提案である。</p>
<p>司会</p>	<p>「いじめや不登校の対応では、子どもの力を生かしていくことも大切である。」という提案ですね。ありがとうございます。</p>
<p>松尾自治協</p>	<p>学校・教職員の多忙化解消について、このマニュアルは非常に素晴らしいと思う。た</p>

委員	だ、ボランティアの協力・活動・コミュニティ・パートナーシップなどを多く活用してほしい。そして、部活動でもなんでもあまりなくさないでほしい。そのために、指導者の指導・教育が必要ではないかと思う。質向上のためには、スパルタ教育的な指導者ではなく、指導の方向性を教育者の研修会など設けながら進めてほしい。より質の良い指導者の育成や生徒たちとの触れ合いも健全に進んでいくのではないか。指導・教育の場があるのかも含めて教えてほしい。
学校人事課	すばらしい提案ありがとうございました。外部の力という部活動の指導の支援をお願いしている。そういうところに今のご意見を反映させ、今後検討したい。また、様々な場面で外部の力、ボランティアの方の協力を得て、実際に各校現場で行われていることも多分にあるので、それらの状況や各学校の様子等を聞きながら適切に対応していきたい。
中野委員自治協	「子どもたちの力でいじめを克服する」ということだが、特に発達に特性のある子どもたちは、 <u>発達に特性がある</u> ため、具体的な言い方をすると分かる子もいるが、理解できなくていじめに発展することもある。また、思いを言葉にできなくて「カッ」となり「切れる」という問題行動に奔ってしまうこともある。しかし、そこで声を掛けてあげるとか、文章にして、見て読んで互に理解できることもある。それは教えないと分からないことなので、学校で具体的な発達の特性と基本的な接し方を子どもたち全員に教えれば、自分の力で(子どもたちの力)でいじめをなくすことができるかもしれない。
司会	先程の渡辺委員の意見は、子どもたちの力を生かすことが有効な場合は、そういうことをやる。といいということで、条件によって変わってくると思います。
渡辺委員自治協	自然的な関係で友達に対してアクションがとれる。そういう人間関係を作ってほしいということ。特に上級生が下級生の面倒を見るというのが、本来の姿だと思うので、そういう子もいるが、自分たちの学年同士でただ固まっているという感じも多々受けられる。一提言である。
司会	5ページの「支持的風土づくりの推進」が書いてありますが、そのあたりとも絡んでくるかと思います。
川村委員自治協	学校の先生方の働き方の環境について、以前学校の先生方がいろんな研修や勉強会に出席し、またそのレポートの作成などかなり大変だと、テレビで見たことがあるが、働き方改革で研修を減らすとか改善点などは。
前田教育長	例えば夏休みに学校閉校日を設けている。また、これまで夏休みも休みとは言え、教員は休みが取れなくて研修ばかりということもあったが、小学校の英語についての研修やプログラミングなどやらなければならない研修や新しい研修もたくさんあるが、ただその中で重点的に厳選したり、2つの課で別々に行っていた似たような研修を一本化したり、中学校の教員の教科ごとに研究する中教研と教育委員会のものを一緒にするなど、少しでも減らそうと努めている。
地域教育推進課	保護者・地域・学校の連携」資料説明
渡辺委員自治協	大通地区の課題としては、講師の固定化。講師が固定化して新しい人がなかなか講

委員	<p>師として見つからない。また、ボランティアの高齢化。同じ人が続けているためだんだん年をとってきていることが、大きな課題になってきている。お互いが人材の発掘をしていかなければならない。</p> <p>今回教育委員会に感謝しているのは、大通地区は学校が避難所になっているが、学校の近くに教頭先生がいらっしゃるということで、今回いち早く学校を開けてもらい、非常にありがたかった。今後、災害対策を踏まえた人事異動をやってもらいたい。本当に感謝している。</p>
鞠子自治協 委員	<p>大通は、学校、PTA、コミ協の個々でいろんな事業をやっているが、コミ協の児童部会としては、活発ではない。PTAの任期が1・2年ということもあり、また、地域教育コーディネーターが、個人との結びつきで活動しているため、地域の中では知らない。地域教育コーディネーターが狭い範囲の地域ではなく、大通コミ協全体の中で動いてほしいが、学校の間人なので地域の中で主体的に動くわけにはいかない。地域として何ができるのか。地域のコーディネーターのような役割を地域教育コーディネータに振ってもらいたい。そして、学校やPTA、全体として何がやれるかなどを年度初めに議論する。例えばあいさつ運動は、コミ協・PTAも加われば、子どもの意識も変わり、家庭から子どもに、地域の人に拡がり、コミ協でも「旗」を作るなど、地域全体で実施できる。コーディネーターが一生懸命やっている地域は、非常に狭義の中でのコミュニケーションづくりであり、『全部とりまとめてくれる。』という人に頼めば楽だが、これからもボランティアを続けるか分からないし、高齢化に入っている。いかにそこを広げるかを考えると、コミ協でも、学校でもどこが主体でもいいが、3者の中でもっと広い意味でコーディネートすることを、地域教育コーディネータの業務の一つとしてお願いしたい。</p>
小嶋自治協 委員	<p>あいさつ運動については、臼井地区では中学のPTAとコミ協と有志の人50人くらいでやっている。コーディネーターの私が一本釣りをやっても組織というのは広がっていかないと感じて、団体を利用して輪を広げている。順調にいったって、4年くらい続いている。</p> <p>また、臼井地区として「狸の婿入り行列」が今年で18回になる。ある人の創作民話であるが、「町おこしをしよう」と始まったお祭りである。今は、中学生の半分以上、小学生も保育園も参加している。コミ協のメンバーも一緒に動いてくれている。昨年度は15年ぶりくらいに復活した「狸のハッピー音頭」は、3年生が考えた振り付けを本職の振付師に依頼して完成した。今年の運動会で披露されたが、グラウンドの土が見えないくらいの人が集まり、みんなで輪になって踊った。そして中学生ボランティアも、腰の曲がったおばあちゃんも一緒に踊った。最初からの夢が今年叶ったというのですごく嬉しい思いである。その他にも小中連携のものもあり、地域の豚農家、米つくりの農家、花つくり農家や、バラを開発している「エディブルフラワー」の卒業生たちが、「地域を知る」という職場体験に進んで招いてくれ、今年も9件もあった。「狸のハッピー音頭」は、毎年3年生の引き継ぎの踊りにし、また町の子どもの盆踊りにと少しずつ膨らんできている。最初の3年生がみんなしっかり覚えた後「これが100年続きますように」と言ってくれた。今年もグラウンド中で300人400人が踊ったので、「ずっと続いて行くといいな」と思っ</p>

	<p>ている。</p> <p>地域で働く人からの町探検や身近な地域で働いている人たちの様子、そして出会いを通して関わり合いを深め、身近で見守ってくれている人々の存在を子どもたちに気づいてほしい。そして地域の人々に親しみを持たせること。そして、農業に関わる人に対して、特に地域の特産である食用バラは、意図的な関わりを通して、地域の農業や食への関心を高めていきたい。3 つ目は、伝統芸能、地域の歴史や地域活性や地域貢献。「狸の婿入り行列」は、途中で反対意見も出たが、どうにか子どもが参加することにより、きっかけ、仕掛けづくりが出来上がってきている。このまま次から次へとだんだん大きな輪になっていくといいと思っている。</p> <p>課題としては、中間層の30代50代前くらいの若い父母は忙しい生活があり、中々平日の参加がむずかしいこと。休日の地域行事を学年行事にしてもらうなどアイデアが出ているので、何かの形で繋いでいきたいと思っている。</p>
司会	<p>臼井地区の地域から「狸の婿入り行列」の時、昔踊られていた踊りを何とか復活してほしいという話が、学校にいき、学校がそれを新たに作って地域の踊りとして今、定着してきているという取り組みでした。</p>
田中委員	<p>庄瀬小学校の活動を3つほど紹介する。一つ目は子ども大凧合戦の凧絵。5・6年生が凧作りをしながら凧絵の堀部江安兵衛について地域の方からの話を聞き、また凧の指導者に白根の大凧の歴史を教してもらっている。2 つ目は水曜花クラブ。5 月からの第2第4水曜日に年間10回ほど地域の方から、学校の花壇の草取りや花植えや子どもたちとプランターへの球根植えなどをしてもらっている。作業の後の茶話会では、情報交換や次の学校行事のボランティアの依頼をしている。3つ目は庄瀬ひまわりカフェ。「子育ておーえんじゃーみなみ」の皆さんと庄瀬小学校のコーディネーター室を会場に子育て中の親子、地域の方と児童が交流しながらミニコンサートや読み聞かせを楽しんでいる。その後、ママたちのハンドマッサージやヨガなどを行ったり、茶話会での情報交換や育児相談などをしながら交流している。今年度第1回は6月13日に行い、次回は秋に開催する予定。庄瀬小学校は子どもだけでなく、地域のいろいろな世代の人たちが交流する場となっている。</p>
司会	<p>堀部安兵衛の学習の発表会は私も拝見させていただきましたが、とても感動的な発表会でした。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
上田教育委員	<p>教育委員感想</p> <p>子どもは、感じ方が違うので、みんなが共有しながら学べる時間があればと思っている。資料の5 ページの「支持的風土づくりの推進」はこれから取り組む課題になるかと思う。そういう取り組みの中で今日の意見を参考にしながらより良いものとしていければと思っている。パートナーシップ事業では、いろんな活動の中で「狸のハッピー音頭」というものが新しく今の活動の中で生まれて、今後 100 年続ければという話を聞いてすごいなと思った。参考にさせていただく。</p>
小野沢教育	<p>貴重な話をたくさん聞かせてもらいました。「ポンタのハッピー音頭」は、見てみたい</p>

委員

なと思った。三年生が中心になって考え、プロが仕上げ、それがどんどん伝わっていく。というのは素敵なことだと思う。渡辺委員のいじめの話は、上級生が縦のラインでもっと繋がって行って、知り合いが増え、仲間が増える。仲間というのは、同じ年ごろばかりではなくて、気心が知れた人たち、何か顔が分かるあいさつができる人たちが学年を越えて世代も越えて仲間ができると、そういうところの目配りができるのかなと思った。そして、中野委員の特別支援学級の子もたちの話は、確かに私たちは何かにつけて想像力が大切だが、その想像力は経験したことの範囲でしか想像できないことが多い。いろんな人の話を聞いていかないと、分からないことばかりなので、いろんな人の話をまず聞くことが大切であると思った。経験値として学び、方法をいろいろ考える。文章や写真・絵だとか気持ちを表現できるものをその子たちが表示できたら、そして、それを見ることによって私たち周りの大人も子どもたちもそこを理解できるようになっていったら違うことってたくさんあると思う。当事者が当事者の近くにいる人たちが声を出して行くことが何か大きく変えるきっかけになると思う。今日は皆さんから当事者としての声をたくさん聞かせていただいた。

閉会のあいさつ

小田会長

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。

新潟市教育委員会の会議録を見ると、「人生 100 年時代」をやがて迎えようとしている現在、私たち市民が長い人生の中でどういう学習を積み重ね、どう豊かな活力ある人生を、地域を作っていくか。あるいは、松尾委員から話のあった次の指導者をどう育てていくか、という観点の議論が、残念ながら見られない。「学・社・民」は非常に長い間使っているが、学校ありきの新潟市の教育委員会の姿。学校、幼保一体化、幼稚園・保育所、新潟市が関わっている高等学校は、人生の 100 年の中の 1/5 に満たないライフステージ。もっと生涯に対してまだ足りなければどうするのか。当面としてどうある新潟市を作っていくのか。本質的に学習する宏大な人生の知識を、活力をどうつけるのか。新しい新潟市を作るために。学校も大事。我々人生で学び得たことを次に伝えて、次の発想と発展を引き出す、大事なことである。それと同時にその子どもたちを育てるためにも人生 100 年ステージに私たちはどう学習を進めていくのか。それを行政がどう支援するのかをぜひとも教育委員会の会議の中で議論いただきたい。次の教育ミーティングがもっと豊かなものになるよう祈っている。ほんとうにありがとうございました。

閉 会